

2022.1.27 No405

おきがくろうニュース  
沖縄学校事務労働組合



自らの要求は自らの手で！

カンパ送付先

郵便振替 02090-0-2239  
沖縄学校事務労働組合

連絡先

e-mail:

okigakurou2017@gmail.com  
HP:okigakurou.web.fc2.com

## みんなでもっとおしゃべりを！

あけましておめでとうございます！学校事務職員のみなさまはいかがお過ごしでしょうか。いわゆる「松の内」の気分がまだ抜けきらない新年早々、新型コロナウイルス（オミクロン株）の急激な拡大を受けて、「まん延防止等重点措置」が1月9日から同月末まで本県に適用となりました。

いつ終息（収束）するとも知れないコロナ禍の中で、かつては大いに楽しんでいた多人数による会食が、まるで遠い昔日のことのように思い出されます。今回は、コロナ禍の中でも業務改善のために実践できることとして、「ハンガートーク」という考え方を中心にご紹介したいと思います。

会食に限らず、多人数で集まることさえ何かとはばかれる今日において、「でもやっぱり、『同業者間のおしゃべり』って大事ですよね！」というごく当たり前のことを、学校事務職員のみなさんと改めて確認したいと思います。

### ＊＊１ 「ハンガートーク」とは何か＊＊

まずは「ハンガートーク」という聞き慣れない言葉について、その定義などを次の引用からご紹介したいと思います。

ハンガー（Hangar）とは飛行機の格納庫のこと。格納庫の片隅でパイロット同士が雑談（Talk）していたことから生まれた言葉。何気ない「おしゃべり」ではあるが、その日のフライト状況やこれまでの飛行経験を話すことで、情報共有や意見交換の役割を持っている。安全第一の航空会社では情報の共有は事故を防ぐ意味でも重要なこと。雑談の中で交換された経験に基づく知識が、日常業務のエラーやミスの防止につながるのだという。（マイストリート編『ビジネス用語図鑑』WAVE出版、2019年、p.145）

つまり、ハンガートークとは「何気ない雑談で、

情報共有や意見交換をすること」であり、「飛行機の格納庫」というその出自から、航空業界では古くから行われてきた「同業者間のおしゃべり」だったようです。

ところで、このような新しい言葉や考え方を初めて見聞した際の「あるある」として、「この新しい〇〇って、要するに昔からやってる△△とほとんど同じでは？」という既視感があります。この目新しい「ハンガートーク」という行為も、現在では手垢にまみれた言葉である「飲みニケーション」や「タバココミュニケーション」と、結局のところほとんど同じように思えますね。「てか、単なるオシャレな言い換えでは？」というツッコミは、なかなか核心を突いた指摘と言えます。

しかし、このコロナ禍のために、前者の「飲み会」は人目を気にするようになり、感染拡大防止の観点から事実上、困難どころか不可能となっています。後者の「タバコ」にいたっては、昨今の健康志向のあおりで、特に若年層を中心に喫煙人口の減少が、統計的事実とともに多くのメディアで伝えられているところです。「煙草をやめるなんてのは、意志の弱い奴がすることです」（立川談志）という威勢のよい啖呵から、「煙草は人生の句読点」（野坂昭如）という静かな内省まで、思えば紫煙がモクモクけおる喫煙所においても「ハンガートーク」と同じように豊かな人間的交流があったと思うのですが…。

### ＊＊２ 私の具体的な経験について＊＊

本記事の筆者である私は、現在、県立学校の給与係をしています。最近、ハンガートークの重要性を再認識させられた事例が、私と他校の先輩との間でありました。具体的には現行の旧給与システムの「とある入力業務」について、私のふとこぼしたグチに対する先輩の思わぬ回答が、まさにハンガートークによってもたらされたのでした。

- (私)「先輩、1月分のアレの入力、やりました？」  
 (先)「ウチは年2回入力で1月はなし。どした？」  
 (私)「こっちは毎月で、入力がもう大変で…」  
 (先)「そんなに大変？どうやって入力してるの？」  
 (私)「マウスで全職員を1人ずつ選択して、金額を入力して、確定を押して…」  
 (先)「えーっ！？そんなやり方じゃ大変だよ！」  
 (私)「ん？何か別の入力方法があるんですか？」  
 (先)「ココをこう選択すると、前者の金額が後者に勝手に自動入力されていくよ」  
 (私)「(実際にやってみる) えーっ！マジですか！コレ…超ラクに入力できます！」  
 (先)「てか、ごめん…。こんなことならもっと早く教えておけばよかったね」  
 (私)「本当に助かりました！2月給与からこの入力方法でやっていきます！」  
 (先)「でも、2月から新給与Webシステムが本格稼働するから、もう使えなくなるかもよ」  
 (私)「……」

もっと早くこの入力方法を知っていれば…と、何度思ったことでしょう。このハンガートークによって、現行の旧給与システムに係るいわゆる「ティップス」が、他校に勤務する先輩から私へもたらされたわけです。ちなみに「ティップス」とは次のとおりです。

ティップス (Tips) は、助言、ヒント、秘訣、秘法、心付けなどの意味の英語。IT分野では、ソフトウェアやハードウェアをうまく使うためのコツや小技、テクニック、裏技などを指すようになった。マニュアルには書かれておらず、非公開や秘密の、あまり知られてないといった意味を含む場合もある。

(中略) 開発者が隠した秘密の機能は、イースターエッグ (復活祭の卵) と呼ばれることもある。

(上掲書、p.125)

\*\*\*3 「職縁」と「耳学問」とのつながり\*\*\*  
 血縁や地縁に対する概念として、「職縁」という言葉があります。「職場を通じて結ばれる人間関係」(『新明解国語辞典』三省堂、第7版) という意味です。この職縁で取り結ばれた私と他校の先輩との

関係において、もっと遠慮なく「同業者間のおしゃべり」(ハンガートーク) をしていれば、毎月悩まされていた給与業務の「解決策」(ティップス) は、より早くもたらされていたはずなのです。

そもそもこの「ティップス」なるものは、古くは「耳学問」と呼び習わされていたものです。「自分で学んだのではなく、人の話を聞きかじって得た知識」(『明鏡国語辞典』大修館書店、第2版) である耳学問は、どちらかと言えば、あまりよい意味の言葉ではない印象ですね。その悪い印象は「自分で学んだのではなく」という他者からの知識獲得の経緯に由来するもので、「自分の努力のみで得た知識こそが本物である！」という根性論的な偏見がそこにはあるようです。当たり前の話ですが、実際の業務にあたり、獲得した知識が問題解決に活かされればそれでよく、その知識獲得の経緯における「正統性」などはあまり問題になりません。

これまでご紹介してきた「ハンガートーク」や「ティップス」という目新しい言葉は、以前から馴染み深い「職縁」という関係性や「耳学問」という知識取得法とも、かなり親和性の高い行為や考え方であることがお分かりいただけたかと思います。

#### \*\*\*4 もっとおしゃべりを！\*\*\*

新年早々、筆者をはじめとした本組合が申し上げたいことは、「同じ学校事務職員の間で、もっとおしゃべりしましょう！」という呼びかけです。現在のコロナ禍において、かつてのような終業後の多人数による飲み会などは、自他の生命を守るためにも厳に慎まなければなりません。

しかし、不要不急の外出や会食の自粛は、そのまま全ての人間的交流の停止を意味するわけではありません。今回ご紹介した業務上のハンガートークだけでなく、各学校の事務室を中心に展開される広い意味での「社交」を、今こそ復活させなければなりません。

本組合が発行しているこの情宣紙「ジムジム」が、学校事務職員による花咲くおしゃべりの話題のひとつとして、そのお役に立てたなら発行者のひとりとして望外の喜びです。今年も本組合をどうぞよろしくお願ひ申し上げます。<(\_ \_)>